

# 青山学院大学アカデミックライティングセンターにおける ライティング支援の現状と課題

## —利用者へのアンケート・インタビュー調査の結果から—

中竹真依子<sup>1</sup>、木村文子<sup>2</sup>、湯浅拓也<sup>3</sup>、市川直人<sup>2</sup>、金鍾必<sup>3</sup>、小林至道<sup>1</sup>

<sup>1</sup>青山学院大学アカデミックライティングセンター、

<sup>2</sup>青山学院大学大学院文学研究科

<sup>3</sup>青山学院大学国際政治経済研究科

### はじめに

青山学院大学では、2017年11月よりアカデミックライティングセンター（以下、AWC）が開設され、「自立した書き手の育成」を目的としたライティング支援を行っている。AWCでは、2017年の支援開始以来、センターの運営・研究に必要なデータを、一貫した方法で収集している（小林・中竹ほか2018）。本発表では、利用者である学生へのアンケートおよびインタビュー調査の結果から見てきた、AWCにおけるライティング支援の現状と課題について考察する。

### 方法

本研究の分析には、2018年度の開室期間中（2018年4月24日～2019年1月29日）に収集した、個別相談後に学生に回答してもらった無記名式の利用者アンケートと、AWCを継続的に利用している学生へのインタビュー調査（1人あたり1時間程度の半構造化インタビュー）のデータを用いる。

本研究では、利用者アンケートの選択肢回答および自由記述回答、インタビューの音声データを文字化したものを分析対象とする。利用者アンケートの選択肢回答の量的分析を通して全体像の把握を行なうとともに、利用者アンケートの自由記述部分とインタビュー調査の結果を質的に分析することで、学生の多様な意見を抽出し、AWCにおけるライティング支援の現状と課題の整理を試みる。

### 結果と考察

利用者アンケートを分析した結果、AWCにおける「自立した書き手を育てる」という理念のもとでのライティング支援は、多くの学生からその有益さを高く評価されていることがわかった。学生の満足度も非常に高く、利用者アンケートでは、「とても満足」が82%、「満足」が17%に上り、99%

の学生がまた利用したいと回答していた。

AWCを利用して初めての感想・要望に関する自由記述回答を分析した結果からは、以下の点が明らかとなった。「1人だとかちかちかしていたものがすっきりして、どう直していけばいいか具体的に分かった」「自分で話をしている、改めて整理することができ、よい機会だと思った」といった回答に見られるように、チューターとの対話を通して、自分の考えが整理され主張や論理を明確にできたことにAWCの有用性を感じていることが読み取れる。インタビューの結果からも、書く過程における他者との対話の重要性と有効性が利用者である学生にもしっかりと認識されていることが示唆された。また、「メソッドとかは教えてもらえるけど、具体的には自分で考えるというところは学生としては必要性が大いにあると思う」「（自分の意見を）尊重していただけるのがとてもうれしい」といった意見もあり、答えを教えるのではなく、書き手の意図を尊重しどのように修正すべきかを書き手自身に考えさせる点が満足度に貢献していることがわかった。

課題については、1回あたり45分という個別相談の時間をもっと長くしてほしいという要望や、場所がわかりづらいなどの回答が得られた。

センターの持続的かつ発展的な運営のためには、年間を通して利用データをさまざまな角度から継続的に収集し、その分析を進めながらその後の運営に順次活かしていくというサイクルを確立していく必要がある。

### 参考文献

小林至道、中竹真依子、天野朗子、近藤泰弘（2018）「大学図書館とライティングセンターの協働による効果的なライティング支援」『第66回日本図書館情報学会研究大会発表論文集』日本図書館情報学会、5-8.